

CLUB KIBI ものづくりから世代間交流

事業主体 名称：CLUB KIBI（クラブキビ）
住所：岡山県岡山市北区庭瀬 968-99

事業実施場所 吉備中央町上竹地区

子どもの体験活動の必要性が全国的に指摘されている中、備前県民局管轄エリアの子どもたちに体験活動の機会を広く提供できたらと考えています。同じく、子どもたちの保護者の世代においても豊富な体験活動経験が少ないことも指摘されております。本事業はものづくりの体験活動を通して、参加者の皆様が交流することを意図しております。毎回の活動の講師は、吉備中央町で農産物の生産や自然から採れる素材を加工し、森や田畑を活かしながら暮らしている方々で、高齢者にもあたる方が多いです。そのような多世代の関わりの中から、自然とともに生きることや、ものづくりの喜びを感じる交流を図りたいと考えています。

～事業実施内容～

体験型交流事業

<第1回>

- ① **事業名** 「あそびをつくる(ツリースイングをつくる)」
→「森をつくる」に事業名は変更。
- ② **参加人数** 祖父母世代2名 親子6組（大人6名、子ども11名）の（19名）
- ③ **日時** 実施日時：令和3年10月30日（土）10:00～14:00
- ④ **場所** 吉備中央町上竹地区（矢萩の森キャンプ場）
- ⑤ **内容** 講師：ツリースイングづくり（菅野浩司氏）
内容：10:00 矢萩の森キャンプ場到着
10:30 里山散策（どんぐりやヒノキの種のほか、リースになるような森の花をひろう）
11:30 ブランコづくり
12:30 塗装の乾燥待ちとリース作り、焼き芋、柿もぎ体験
13:30 ブランコ遊びと交流、どんぐりの苗植え
14:00 解散



⑥活動の成果等

世界にひとつだけの「マイブランコ」の製作を通して、祖父母世代と保護者、その子ども、家族間の交流を行った。木々の生い茂った矢萩の森キャンプ場の森の中を散策し、木の上に掛けたロープに、参加者が制作した「マイブランコ」を取り付けた。手順は、講師の指導の元、木の板をノコギリで切り出し、ロープを通す穴をドリルであけた。やすりをかけたり、好みでペイントしたりと講師と参加者間との交流を楽しんだ。ロープにブランコをとりつけ、ひとりひとつのマイブランコあそびを楽しんだ。その他、今年は、「森をつくる」をサブテーマに、どんぐりや檜の種をひろったり、実際の森の木の伐採、伐採した木の再利用として、薪木づくりやリース作り、焚き火、さらに、どんぐりの苗植えなど、森の循環について学ぶことにも重きを置いた。振り返り会の後、解散した。

<第2回>

- ① 事業名 「住をつくる(ろうそくをつくる)」
- ② 参加人数 祖父母世代 2名 親子6組(大人6名、子ども11名)の(19名) + 補助の大学生スタッフ4名
- ③ 日時 令和3年12月19日(日)
- ④ 場所 吉備中央町上竹(矢萩の森キャンプ場)
- ⑤ 内容 講師：燭台づくり(菅野浩司氏) 大豆のしょうやく指導(藤井順子氏)
内容：12:00 矢萩の森キャンプ場到着
12:30 大豆の収穫体験と森の散策をしながらの枝拾い
13:30 枝の削り込みや、粘土での枝の型取り
14:30 蜜蝋の流し込み
15:00 燭台づくりと完成。足踏み脱穀機や唐箕の体験。
16:00 解散



⑥ 活動の成果等

世界にひとつだけの「あかり（ろうそく）」づくりを行った。祖父母世代の講師とともに、森の中を散策し、お気に入りの木の枝、形の気に入った枝を集めた。ろうそくの形を整えるため、のこぎりや小刀を使用し、枝を整形した。ちょうどよい形ができたなら、土粘土に押し当てて枝の型をつくり、芯をつくって型にろうを流し込んだ。ツリースイングの回で伐採してつくった木の皿や木片を活用し、燭台も制作した。2月予定の「みそをつくる」回のための、干していた大豆の殻からの豆の収穫、脱穀体験も行い、便利な現代の暮らしや、手間ひまをかけていた昔の暮らしの一部について体験した。

地域ぐるみ会議の開催

<第1回>

① 参加人数 5名

参加者：事業①②講師（藤井順子氏、菅野浩司氏：祖父母世代）、
クラブキビメンバー（柏原、古賀、六反）

② 日 時 令和3年8月1日（日）18:00～19:30

③ 場 所 岡山市内庭瀬近隣カフェ

④ 内 容 地域の関係者として事業の講師（祖父母世代）をお招きし、地域の課題、可能性、本活動の今年度の計画等について話し合いを行った。地域の課題に関しては、耕作放棄地の活用、次世代育成の課題などを検討した。地域の可能性にふれ、本事業の着実な実施の意義を確認した。今後の計画としては、定期的な参加をうながし、参加者の顔を見えやすくするため、LINEのオープンチャットの仕組みを活用することになった。また、運営側については、facebookメッセージを活用し、情報交換をすることになった。そのことにより、スタッフ間の意思疎通がスムーズになり、定期的に参加する親子も増加することを期待することとなった。（連携の強化が図られた。）

⑤ 活動の成果等 これまでばらばらに連絡をとっていたのが、連絡網をつくると、日常的に参加者同士でつながりを意識するようになった。

<第2回>

- ① **参加人数** 4名
参加者：事業①②講師（菅野浩司氏：祖父母世代）、
クラブキビメンバー（柏原聡、六反）、保護者メンバー（稲葉）
- ② **日 時** 令和4年2月3日（木）
- ③ **場 所** 岡山市内吉備津神社近隣公園
- ④ **内 容** 地域の関係者として事業の講師（祖父母世代）をお招きし、地域の課題、可能性、本活動の今年度の振り返りおよび次年度計画等について話し合いを行った。今回の事業の振り返りでは、参加者のコメントや、講師の感想を確認した。
- ⑤ **活動の成果等** 同日に、吉備津神社での豆撒きにも参加し、参加者全員で岡山県の国宝文化財の内部に入ることができた。この会議をへて、一層の参加者間のつながりを意識できるようになった。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

備前県民局管轄エリアの子どもたちに体験活動の機会を広く提供することにより、ものづくりの楽しさ、協働の楽しさにふれることができた。また、今回は、穀物の育成や森の育成という長期にわたる活動もあったことから、農業の深さ、林業の循環の大切さなど、過去の人々の努力の上に私たちの風景や文化がなりたっていること、日常生活を支える様々なものが人の手によってできていることを理解する大変良い機会となった。体験活動により得られる思考力・判断力・表現力等の涵養にも資する。同時に、ものづくりの体験活動を通して参加者の皆様が交流することにより、子どもたちの保護者の世代での体験活動の機会にもなった。これまでの調査では、保護者の体験・興味が少ない場合、その子どもの体験も少なくなる傾向が得られているので、このクラブ活動をきっかけに子供たちの体験もまた増えていくことが考えられる。吉備中央町で森や田畑などの自然環境を活かしながら活動を提供している方々を毎回の活動の講師とすることにより、本事業の関わりの中から、自然とともに生きることや、ものづくりの喜びを感じる交流が生まれる効果があったと言える。

○今後の課題・展開

課題としては、従来より、参加の呼びかけ方法が手薄で、各回の参加者が固定化しがちなことが課題である。また、2020年から続くパンデミックの影響で、リアルな場をつくり、飲食もともにする体験機会を提供することには、運営側も参加者側も、引き続きハードルが高いことも、体験活動事業には難題となっている。また、主催者の健康理由から、このクラブ活動をいかにサステナブルに続けていくことができるか、いかに民主主義的に実施していくかも今後の課題となった。

一方、吉備中央町に移住して生活する子育て世代は増えており、自然や食への関心も高い。今後も口コミなどを通して、参加者を増やし、地域移住者、都市生活者など、枠を問わず、参加者同士の交流を図ることにより、多様なネットワークが生成されることや、都市では得ることのできない交流を生み出すことが、今後も期待できる。

リアルな場、自然の場での交流もしかりであるが、連絡網として作成してきた SNS などの力を借

りて、間があきがちな実施回と実施回との間にオンラインでの交流を増やしてみるというのも、パンデミックに翻弄されがちな時流にあった、一つの展開と考えられる。

○まとめ

5年継続しているこのクラブ活動を収束させずに、今後もサステナブルに展開し、ものづくりから世代間交流を促し、自然と共に生きることや、喜びを感じる交流を図りたいと考えています。